

ブルンジ月報（2026年2月）

※以下は、ブルンジ主要メディア（RTNB、IWACU等）の記事取りまとめ。

1. 政治・外交

今月のンダイシミア大統領の主要な動きは以下のとおり。

- 3～5日、ドバイで行われた「ガバナンスに関する世界首脳会議」に出席。再生可能エネルギー、食料安全保障、AIなどについても議論が行われ、アフリカ諸国からは特に水・衛生分野への関心が寄せられた。
- 14日、アディスアベバで行われた第39回AU首脳会合に出席。同会合にて、ブルンジがAUの議長国に、ンダイシミア大統領が議長に就任した。ブルンジがAUの議長国に就任するのは初めて。
- 27日、仏のモバイル通信会社である「Lyca Mobile」のAllirajah Subaskaran 代表取締役率いる一行による表敬。この表敬に先立ち、ブルンジでは大統領令にて同社の通信業に対する許可が出ていた。

内政に関し、

- 23日、昨年12月中旬から閉鎖されていたコンゴ（民）との陸路国境が再開した。なお、同再開に関するブルンジ政府の公式発表は出ていない。

外交に関し、

- タンザニアから、毎週数千名単位のブルンジ帰還民が帰還。ブルンジ政府もこうした難民のブルンジへの帰還を呼び掛けており、UNHCRは難民一人あたりにつき200ドルの帰還支援を行っている。

2. 経済

- 12日付の北部県ブタニエレラの県知事による公式声明にて、アボカドの33品種（Ruhere、Shokete、Fuwereti）の収穫及び販売を3月15日まで禁止する旨発表された。未熟なアボカドの販売を防止し、アボカド農家を守るための政策とされているが、一部農家からは過度な規制や規制による汚職を懸念する声が出ている。

（了）